

令和5年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

元工業高校としての歴史をもち、多様な進路実現をめざす夜間定時制の総合高校として、多様な価値観を認めていく人権尊重の態度を養い、自己肯定感をもち自ら夢や志を抱いて人生を切り拓くチカラを育てる。

1 生涯にわたる幸福をめざし、「知識・技能」を習得し、「思考力・判断力・表現力」をはぐくみ、個々のニーズに応じた学びを実践する。

2 仲間づくりや人とのかかわりを通じてコミュニケーションを豊かにすることを自ら学び、人権を尊重し「ともに学び、ともに育つ」学びを実践する。

3 様々な体験的活動や外部人材の活用を通じ、自己実現を支援する。

2 中期的目標

- 1 確かな学力の定着と将来をみすえた自主性・自立性の育成
- （1）Society5.0の到来により急速に変化する社会に適応し、生きて働く「知識・技能」の習得、未知の状況に対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育むため、ICTの活用を含めた「主体的・対話的で深い学び」の実践をめざす。
- （2）自主性・自立性の育成を重視したキャリア教育の充実を図り、進路選択のサポートを強化し、進路決定率をR7年度に90%をめざす。
R2：66.7%、R3：91.0%、R4：96.2%
- （3）「学びに向かう環境づくり」をめざし、欠席・遅刻等の改善を図る。
※全出席率をR7年度に70%をめざす。 R2：61.8%、R3：68.4%、R4：62.2%
(参考：遅刻・早退を含む出席率R4：78.4%)
- 2 豊かな心と健やかな体の育成と人権を尊重する学びの推進（生徒自らが活気ある学校生活を送る）
- （1）人権感覚を高め、人権意識を深め、互いに多様性を尊重する学びの場を提供し、自尊心と自他を思いやる豊かな人間性を育む。
- （2）体験活動等の充実化を図り、心身ともに健やかに、人生を切り拓く力を育成する。
- （3）あいさつ運動の定着化により、社会人として必要な基本的生活習慣と規範意識を身につける。
- （4）安全安心な学びの場について、ソフト面及びハード面の両面における整備・提供を図る。特に、ソフト面ではSSW（スクール・ソーシャル・ワーカー）やSC（スクールカウンセラー）等を活用し、生徒を中心として家庭・地域・外部機関との連携を図る。
※「課題を抱える生徒フォローアップ事業」を活用し、文部科学省が公表した令和2年度全国公立高等学校定時制課程の中途退学率7.1%以下を維持する。
- 3 学校運営の活性化と教職員の資質・能力の向上
- （1）学校運営の活性化と効率化を図る。
- （2）OJTと外部研修を組み合わせ、個々の教職員のキャリア形成に必要な資質・能力の向上を図り、リーダーの育成に取り組む。
- （3）教職員の同僚性を向上し、業務の効率化を見直し「ミドルアップ・ダウン型」の組織作りに取り組む。
- 4 開かれた学校づくりのための取組みを推進する
- （1）地域との連携、地元中学校および保護者等への広報に関してHPの活用を充実させる。
- （2）地域とともに歩み、親しまれる学校づくりに努める。
- （3）企業との連携（工業科）を実施し、技術面等での意見交流を活発化するよう努める。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和6年1月実施分〕	学校運営協議会からの意見
【生徒の評価】 ・学校行事についての肯定的回答が7割を超えている。今年度はコロナ禍を乗り越え、行事における制約が緩和されたことが影響しているものと思われる。 ・きまりや校則を守る意識、生徒指導に関する肯定的回答が約7割となっている。生徒指導部を中心に日常の指導が評価されたものと考えられる。 ・その他、特に低い評価は見られなかったが、部活動参加については工夫の余地がありそうである。 【保護者の評価】 ・生徒の様子についての肯定的回答が7割を超えていることから、生徒が学校生活、授業、行事にある程度満足している様子がうかがえる。 ・進路指導や教育相談についても肯定的回答が7割を超え、特に生徒指導について、ルールを守る態度を養う学校の方針について肯定的回答が約8割であることから、学校の教育活動に一定の理解と協力を得ることができていると考えられる。 【課題】 ・引き続き教育活動全般の改善を図っていく。 ・教員同士の同僚性を高め、職場環境の改善を図っていく。	第1回（6/30） ・4年制大学への進学を促すことも可能ではないか。 ・中学校で不登校や支援学級に在籍する生徒の保護者に対して定時制の取組を紹介する機会を作ってほしい。 第2回（11/2） ・いじめの事案では、被害生徒へのケアなどを最優先とするも、加害生徒に対する生徒理解にも留意する必要がある。 ・文化祭で模擬店を出していたが、活気にあふれていた。 第3回（1/26） ・定時制の良さをより一層出すため、少人数を生かして一人ひとりにあった指導計画のようなものを作ってもよいのではないか。 ・生徒に教員のよいところを書き出してもらい、教員間で共有するとともに記録で残しておくような取組みもおもしろいのではないか。 ・昔の工業高校、男子校のようなイメージが地域にいまだにあるので、そのイメージを払拭するため、ものづくりで作成したものを市役所で展示してはどうか。 ・体験活動を充実させていくことは今後ますます重要になってくる。

府立和泉総合高等学校 定時制の課程

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 4 年度値]	自己評価
1 確かな学力の定着と将来をみすえた自主性・自立性の育成	(1)「主体的・対話的で深い学び」の実践 (2)自主性・自立性の育成を重視したキャリア教育の充実 (3)「学びに向かう環境づくり」と欠席・遅刻等の改善	(1)・ICT の活用や体験的活動を通して、「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざし相互授業見学を行う。 ・生徒の特性を理解し、生徒に寄り添った指導で、生徒の自己肯定感を育む。 (2)・ハローワーク、教育産業等の外部機関及びCC と連携して就職指導を実施し、キャリア意識形成における生徒の自主性・自立性の育成を図る。 ・社労士等を活用し、将来社会人として有用な情報提供を実施しキャリア意識形成を図る。 ・生徒のニーズに応じた科目の選択や受講指導を実施する。 ・ハローワーク等との連携や企業訪問による就職先の開拓を実施する。 (3)・保護者との連携を充実させ、課題の早期発見・早期対応を図る。 ・生徒面談を随時行い、きめ細やかな対応を図る。 ・「校内会議」「ケース会議」を活用し、SC・SSW の専門的知見をふまえて生徒情報を共有し、生徒支援を図る。	(1)・学校教育自己診断の「学校の授業はわかりやすく楽しい」の肯定的回答率 70%以上をめざす。[65. 0%] (2)・学校教育自己診断の進路指導に関する設問の肯定的回答率 70%以上の維持をめざす。[70. 0%] ・応募前職場見学会や企業訪問を積極的に実施(就職希望者の 100%) ・進路決定率の水準 90%以上の維持をめざす。[96. 2%] (3)・学校教育自己診断の進路指導に関する保護者の肯定的回答率 80%以上の維持をめざす。[82. 3%] ・出席率 70%以上維持をめざす。[78. 4%]	(1)・学校教育自己診断の「学校の授業はわかりやすく楽しい」の肯定的回答率 60. 8% (△) ※相互授業見学で生徒の学びに関する情報交換が一定数の教員間でできた。 (2)・学校教育自己診断の進路指導に関する設問の肯定的回答率 66. 7% (△) ・学校斡旋就職希望者に対して応募前職場見学を 1 人 1 社以上(100%以上)実施した (○) ・進路決定率 85. 7% (△) ※今年度も教育産業等の外部機関による職業説明会を実施、また、ハローワークおよびCC と連携して就職指導を実施し、生徒のキャリア意識形成を図り、年内に学校斡旋就職希望者全員の就職内定につなげることができた。 (3)・学校教育自己診断の進路指導に関する保護者の肯定的回答率 78. 9% (△) ・今年度の出席率：79. 5% (○) ※今年度は、公認心理師の資格を持つ支援コーディネーター中心に支援体制の確立を図り、管理職を含む全教員での生徒に関する情報交換を密に行うことができた。
2 豊かな人間性の育成と人権を尊重する学びの推進	(1)人権尊重の教育の推進 (2)体験活動等の充実 (3)基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成 (4)安全安心な学びの場について、ソフト面及びハード面の両面における整備・提供	(1)・身近な差別事象や人権問題について正しい理解を深め、関係機関や専門家と連携し「豊かでたくましい人間性」を育む。 (2)・文化祭、球技大会等をより一層充実させ、健やかな心身を育むとともに人との協働を学ぶ場を提供する。 ・生徒会活動を活発化させるとともに、学校の中核となる生徒を育成する。 ・部活動の活性化を図る。 (3)・社会人として基本的なあいさつや礼儀に関する習慣を身に着ける場を提供する。 ・通信機器や情報機器等の適切な使用マナーを身につけさせる。 (4)・「課題を抱える生徒フォローアップ事業」を活用し、SSW・SC を活用した校内体制の充実を図り、保護者の理解を得る。また、個々の教員とも連携し、子ども家庭センターや市町村関係部局をはじめ地域の組織との協働を充実させながら、安全・安心な学びの場づくりをめざす。 ・「いじめ」の対応についても上記の校内体制で実施する。 ・災害時の安全確保の観点から生徒の活動場所の照度点検と安全な作業のための環境整備を継続する。	(1)・学校教育自己診断の生徒の人権に関する設問で肯定的な回答率 70%以上維持をめざす。[80. 0%] (2)・学校教育自己診断の学校行事に関する設問で肯定的な回答率 70%以上維持をめざす。[75. 0%] ・部活動参加のべ人数 40 名以上をめざす。(R 4 年度のべ 48 名/在籍 66 名) (3)・校門前の「あいさつ運動」を継続し、授業の開始・終了の「起立・礼」を励行する。 ・学校教育自己診断の生徒の「決まりや校則」に関する設問で肯定的な回答率 80%以上維持をめざす。[86. 7%] (4)・学校教育自己診断の保護者の相談等に関する設問で肯定的な回答率 75%以上維持をめざす。[79. 5%] ・学校教育自己診断の生徒のいじめに関する設問で肯定的な回答率 60%以上維持をめざす。[60. 0%] ・学校薬剤師・産業医とも連携して設備の安全状況把握等に努め施設改善する。	(1)・学校教育自己診断の生徒の人権に関する設問で肯定的な回答率 64. 7% (△) ※生徒は、授業や学校行事において仲間づくりを通して自ら人権尊重の態度を学んでいる。教員側の生徒に対する配慮も影響が大きい。 (2)・学校教育自己診断の学校行事に関する設問で肯定的な回答率 70. 6% (○) ・部活動参加のべ人数 42 名 (○) ※生徒秋季発表大会において、生活体験発表大会では 2 年生 1 名が全国大会出場者に選ばれた。また、書道の部では、3 年生 1 名が受賞した。 ※文化祭では模擬店を復活させ生徒の活動内容を一層充実させることができた。 (3)・生徒指導部中心に、校門前の「あいさつ運動」を継続できた。また、全教員で授業の開始・終了の「起立・礼」を習慣づけるよう継続することができた。(○) ・学校教育自己診断の生徒の「決まりや校則」に関する設問で肯定的な回答率 72. 0% (△) ※スマホの適切な使用マナーを引き続き指導していく必要がある。 (4)・学校教育自己診断の保護者の相談等に関する設問で肯定的な回答率 73. 6% (△) ・学校教育自己診断の生徒のいじめに関する設問で肯定的な回答率 56. 8% (△) ・学校薬剤師・産業医と連携し、設備の安全状況把握等に努め安全な職場環境を確保することができた。(○) ※SSW・SC 及び管理職を含む全教員による生徒の情報共有を行うとともに、子ども家庭センターや市町村関係部局と密に連携して事案に対応し、チームとしての支援校内体制を充実させ、安全安心な学びの場づくりに貢献することができた。

府立和泉総合高等学校 定時制の課程				
3 学校運営の活性化と教職員の資質・能力の向上	(1)学校運営の活性化 (2)教職員の資質・能力の向上と同僚性の向上	(1) ・各種委員会等の活性化と効率化を図る。 ・学校教育自己診断結果等を学校運営協議会等で公表し、意見を集約して学校運営に生かす。 (2) ・OJT と外部研修を組み合わせ、個々の教職員のキャリア形成に必要な資質・能力の向上を図る。 ・同僚性を向上し、互いに切磋琢磨する職場をつくる。	(1) ・学校教育自己診断の「教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている。」の肯定的回答率 60%をめざす。 [53. 9%] (2) ・キャリア形成に必要な研修等によりリーダー育成を図る。 ・経験年数の少ない教員を積極的に分掌長等に任命し育成する。 ・ストレスチェック「同僚のサポート指数」を維持する。 [7. 4]	(1) ・学校教育自己診断の「教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている。」の肯定的回答率 37. 6% (△) (2) ・それぞれの教職員の適性に応じたキャリア形成に必要な研修受講(受講者 4 名)を進めることができた。(○) ・ストレスチェック「同僚からのサポート」(偏差値 48<57(他校平均)) が比較的低い水準になっている(検査業者が変更となったため指標も変更された)。今後の課題。引き続き、職場における対人関係の改善を図り、明るい職場づくりをめざしていく。(△)
4 開かれた学校づくりのための取組みの推進	(1)地域との連携、地元中学校および保護者等への広報 (2)地域とともに歩み、親しまれる学校づくり (3)企業との連携(工業科)	(1) ・秋季発表大会・産業教育フェア等へ積極的に参加し、教育活動の成果を発信し、中学校・地域等にアピールする。 ・保護者の学校活動への参加を促進する。 ・学校見学・説明会の申込を随時受け付け、生徒・保護者・中学校教員にアピールする機会を設ける。 (2) ・生徒会による学校周辺地域の清掃活動を実施する。 ・教員による学校周辺地域の清掃活動を、毎日のあいさつ運動時に行う。 (3) ・企業の最新技術を駆使した作業に協力し、生徒を参加させることで生徒の育成及び知識技術の交流を図る。	(1) ・生徒の学校行事や課外活動における様々な活動について HP のブログで紹介する。 (月 2 回程度更新) ・学校教育自己診断の「学校行事への参加」に関する保護者の肯定的回答率 50%以上維持をめざす。 [51. 5%] ・学校見学・説明会の随時実施回数 4 回以上をめざす。 [4 回] (2) ・学校周辺の清掃等、地域との活動を充実(年 5 回) ・毎日のあいさつ運動時に学校周辺を清掃 (3) ・随時、機会をとらえて企業との交流を継続する。	(1) ・文化祭、バレーボール大会、生徒会選挙などの学校行事、および、秋季発表大会、産業教育フェアなどのイベント参加など、生徒の活動を中心に月 2 回程度 HP のブログで発信することができた。(○) ・学校教育自己診断の「学校行事への参加」に関する保護者の肯定的回答率 36. 9% (△) ・学校見学・説明会の随時実施回数:12 回(◎) (2)) ・生徒会による学校周辺地域の清掃活動を年 5 回実施した。(○) ・生徒指導部中心に、毎日のあいさつ運動時に学校周辺を清掃した。(◎) (3) 授業の一部を企業との交流に充て、今年度は道路標識の補修技術について生徒が体験できた。(◎)
5 校務の効率化と働き方改革の推進	ア 労働安全衛生管理体制の充実	ア 「府立学校における働き方改革に係る取組みについて」に沿って業務の見直し・効率化を図る。	ア さらなる会議の効率化等により、ひと月当たりの時間外勤務時間が 40 時間を超えない職員数を維持する。	全般的に時間外勤務時間は少ない(40 時間を超えた職員 1 名)。引き続き、ひと月当たりの時間外勤務時間が 40 時間を超えないよう促していく。(○)